

No.16	高度化		
氏名	村下 慎一	社会学研究科	M1
1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。			
ポスト・コロナ時代における合気道の実践意義の探求:原理論的分析を手がかりとして			
2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。			
<p>本テーマの実践にあたって、当初は学外の研究機関である新日本スポーツ連盟附属スポーツ科学研究所（AISS）における研究活動（関西圏における研究成果報告）および京都・東京での対面調査を中心とする研究活動を前提としていたが、昨今の社会情勢と、AISSの活動制限（各種研究会の中止、機関誌の発行延期）を踏まえて、本年度はやむを得ず自宅での活動に限定して取り組んだ。</p> <p>本年度のの到達目標は、以下の学会・研究会での研究実績の積み上げである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スポーツ科学研究所における口頭報告（研究会の中止による断念） 2 東アジア日本学研究会学会機関誌への投稿（原著論文の採択決定） 3 国際学会での口頭報告（韓国語日文学会主催の合同フォーラムでの報告） 			
5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。			
<p>現在、AISSの現代スポーツ研究と東アジア日本学研究会の東アジア日本学研究、という2つの学術雑誌への投稿準備を進めている（今年度投稿締め切り、次年度発行予定）。これらが無事採択されれば、本年度の活動成果をより充実させることができるため、これらに精力的に取り組んでゆく所存である。また申請者は、本学本研究科の博士後期課程への進学を検討しているため、本活動の成果をもとにより発展的なテーマに取り組む所存である。</p>			
6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。			
<p>上掲の通り、本活動は申請者の正課における研究を発展させ、ポスト・コロナという潮流に向かうなかで、格闘技種目のもつ社会的な公益性を示しうる取り組みである。その活動の中では今後の研究者生活において、基盤となる有用な知見を得ることができた。</p>			
7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元の点で記述してください。			
<p>本活動における「社会問題の解決に資する個人での活動であって正課外の自主的なもの」という性質は、「コロナ以降の社会的な潮流のなかで、スポーツ（とくに対面の濃厚接触状態で実施される格闘技種目）が制限されるなかで、「スポーツ権」という普遍的な人権をどのように主張、保障し、社会的な了承を得るのか？」という研究目的によって、担保されている、と考えられる次第です。</p> <p>狭義の成果は、以下の二点に収斂されます</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 合気道界における還元 合気道研究において極めて限定的であった社会学的分析を体系的に取り組んだこと 2 学術的な還元 エリアス学派に関する武道研究のパイロット・スタディーズとしての知見の提示 <p>しかし、広義の成果として、合気道の実践の要求が、その内在的な性格である平和思想を通して、日本国憲法に内含される「平和的生存権」の希求を意味していることを導いております。</p> <p>それゆえ、「スポーツ権」としての合気道の実践要求は、同時に「平和的生存権」の保障の要求としての意味を持ち合わせており、それによって「ポスト・コロナ時代における合気道の実践意義の探求」という本研究の活動趣旨を試論的に導き出した、といえます。</p> <p>これらの研究成果の還元を通して、政策提言などへの還元可能性が開かれているところです。</p>			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。

3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。

学術誌への投稿は2度目であったが、前回とは性質が異なり、申請者の専門領域外の学会誌への投稿であった。他分野への投稿という性質上、多くの困難があったが、1度目の査読で受理されるに至った。この採択までの過程において、申請時に提出した「本活動の社会的還元性：第一に、本学およびAISSにおける研究活動への貢献、第二に、スポーツ・武道研究をはじめとする学術分野、さらに武道統括団体の実践活動に対する貢献」において想定していなかった学術分野への還元に寄与することができた。

3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？

本活動は、正課活動を通じた合気道研究をもとにしながらも、それを発展・高度化するものであった。とくに申請時には「本活動は研究機関AISSにおける「原理論と現状分析」に関する研究活動であり、今年度の論文採択を目指したものである」と記載したが、正課との差別化として、マルクス主義的な原理論解釈、そして「ポスト・コロナ以降の対人格闘競技種目もつ文化実践の意義」に関するエリアス学派的な解釈を中心課題として据え、研究活動に邁進した。これらの成果は、現在取り組んでいるAISSの機関誌への論文投稿にくわえ、国際的学会での研究成果の還元を行うことができた。本活動と正課活動は、位相が異なるものの深く関連しており、双方の活動をより実りあるものにする事ができた。

4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。（該当ナンバーに○）
また、併せて評価の理由も書いてください。評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】

① 目標の達成度	4
<理由> 活動計画に大幅な変更が生じたが、当初の論文投稿という到達点はブレることなく、活動に邁進できた。投稿期限の延期により、現在論考の執筆中であるため、引き続き活動に邁進する所存である。	
② 計画の達成度	3
<理由> 当初の計画と大幅に異なるものとなったため、達成度の評価は困難である。とはいえ、成果の還元という点では、当初の計画で想定していた成果以上の実りがあった。	
③ 取り組みを通じた自己成長	5
<理由> 本活動を通じた研究成果は、国内報告1度、国際報告1度、学位論文1本、査読論文投稿3度（うち2本は現在査読審査申請中）と実りあるものであり、これらを通じた自己成長は相当なものであった。	

10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。

① 身についた力	自己表現力
② ①で記述した力について具体的に説明してください	異分野における学会報告などの際には、やはり専門領域外の研究者に伝わる論理構成力などが求められる。そのような工夫全般を指す。
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください	研究成果の報告を継続的にかつ学際的に取り組んだこと